

千葉県我孫子市

日秀遺跡遺構確認調査概報

1981

千葉県教育委員会
財団法人 千葉県文化財センター

例 言

1. 本書は、昭和54年度に続く日秀遺跡（東南部）の規模、内容等を把握するための遺構確認調査の概報である。
2. 本調査は、昭和54年度と同じく、国の補助金を受けた千葉県教育委員会からの委託で、財団法人千葉県文化財センターが実施した。調査期間は昭和55年12月1日から昭和56年3月31日（整理期間を含む）である。
3. 本調査および本書の執筆、編集は、当センター調査部班長古内 茂、調査研究員奥田正彦が担当した。
4. 掘図の中で、遺構検出状況図のスクリーントーンの部分は住居跡のカマド、土器実測図で、断面白ヌキは土師器、黒塗りは須恵器、粗いスクリーントーンは黒色処理、細かいものは灰釉を表している。
5. 調査の遂行、報告書の刊行に当たっては、千葉県教育庁文化課の御指導を受けた。また調査に際しては、関係地主の方々に御協力、御支援をいただいた。もとより、調査の成果は、現場、室内整理に従事した補助員の方々の賜物である。記して厚く感謝の意を表したい。

目 次

例 言.....	1
目 次.....	2
1. 調査の経過と概要.....	3
2. 検出遺構.....	4
3. 出土遺物.....	5
4. 結 語.....	6

挿 図

第1図 遺跡地形図.....	7
第2図 Aトレンチ遺構検出状況図(1)	8
第3図 " " (2)	9
第4図 B, C, D, Iトレンチ遺構検出状況図.....	10
第5図 Eトレンチ遺構検出状況図.....	11
第6図 F, G, Hトレンチ遺構検出状況図および土層断面図(1)	12
第7図 " " " (2)	13
第8図 J, K, L, Mトレンチ遺構検出状況図.....	14
第9図 遺構実測図.....	15
第10図 出土遺物実測図(1)	16
第11図 " (2)	17
第12図 " (3)	18

なお、挿図縮尺は次のとおりである。第1図・1/3000, 第2~5, 8図・1/120, 第6, 7図, 平面図・1/120, 断面図1/60, 第9図, 1, 2, 4平面図・1/120, 3, 4断面図, 5~1/60, 6~1/30, 第10~12図・1/4。

図 版

図版一 Aトレンチ(西より)・Aトレンチ(東より)	21
図版二 Fトレンチ(南より)・A7グリッド溝(南より)	23
図版三 A13グリッド溝(南より)・aトレンチ掘立柱跡(東より)	25
図版四 出土遺物(1) 土器, 墨書.....	27
図版五 " (2) 墨書, 線刻.....	29

1. 調査の経過と概要

今回の調査目的は、昭和54年度に引き続き日秀西遺跡の遺構分布状況を確認し、官衙遺構としての性格をより明らかにするためのものである。

昭和52年12月から1年間にわたったこの日秀西遺跡の調査では、古墳時代後期を中心とする竪穴住居跡群とともに多数の掘立柱建物跡から多量の炭化米が検出された。とりわけ、掘立柱建物跡の規則的な配置が確認され、類似する遺跡との比較により、古代地方官衙遺構の倉庫跡群と推定されるに至った。^{註1}また、昭和54年度の遺構確認調査は、日秀西遺跡の成果をもとに東接する地区（字名はチアミ）を中心に実施した。その成果として、日秀西遺跡と同様に古墳時代後期のかなり濃密な住居跡群の存在を確認した。しかし、官衙関係のものとしては、掘立柱跡らしいピット群や道路跡状の堅緻面を確認し、歴史時代の土器を数点検出したのにとどまり、より明瞭な性格の把握は今後の調査を待つこととなった。^{註2}

このような状況の中で、昭和55年度の遺構確認調査は、県教育委員会の委託を受け、1,500m²の範囲を昭和55年12月1日から同月27日まで、追加調査として県文化課から指示のあった 270 m²については、昭和56年3月4日から同月10日までの5日間の2度にわたる調査となった。対象区域は前年度の調査区域に東接し、字名は堀込、四戸戸と官衙跡に由来すると思われる地を選定した。

堀込地区は字名が示すように、堀、溝との関連が予想され、日秀西遺跡や昭和54年度の調査の結果から予想される溝が官衙を区画するものならば、その方向は南北と推定された。このため、堀込地区には中央を東西に横切る長いAトレンチを設定し、溝の検出を急いだ。その結果南北に走る溝が2条検出されたので、溝を追跡するためにa、bトレンチをAトレンチに接して南北に設定した。さらに、追加調査時に、aトレンチの北にJ～Mトレンチを設定したが、作物等の関係で調査が不可能な部分もあり、溝の一部を検出したにとどまった。

四戸戸地区は、字名から建築遺構の存在が予想されたので、できるだけ遺跡の性格を明らかにするために、地区内を東西、南北両方向に区切るB～Iトレンチを設定した。トレンチは、遺構を確認するため幅は原則として4mとした。また、必要に応じ各々のトレンチを4×4mのグリッドに分割し、各グリッドに番号を与え、検出遺構や出土遺物にそなえた。その結果、国分期と思われる濃密な竪穴住居跡群（検出数50軒以上）と、3棟以上の掘立柱建物跡を検出し、歴史時代の良好な遺跡であることを確認した。

註1 「千葉県我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書」（財）千葉県文化財センター 1980

註2 「千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報」 千葉県教育委員会 1980

2. 検出遺構（第2～9図）

堀込地区には、東西方向にA(4×124m), a(2×50m), b(2×26m), J～M(16.5×16.5m)の各トレンチを設定した。検出遺構は、竪穴住居跡、溝状遺構、掘立柱建物跡、土壙状遺構、小穴群である。検出面までの深さは、A, a, bが約20cm, J～Mが約45cmである。地山は、A, a, bがソフトローム、J～Mが褐色土である。竪穴住居跡は、Aトレンチ内のA7より東側とMトレンチ内に検出された。時期は、周辺の遺物から、Aトレンチ内のものは国分期、Mトレンチ内のものは鬼高期と思われる。覆土は暗褐色土が主で、赤褐色や黒色を呈した土層も認められ、四間戸地区で検出した竪穴住居跡と同様である。深さは20～50cmを計測する。掘立柱跡は、明瞭なものがA11, 12とaトレンチ内に検出され、掘形と柱跡が堆積土の違いにより識別できた。掘形の覆土はロームブロック混入の暗褐色土で、柱跡は暗褐色土となっていた。深さは50～80cmである。土壙状遺構は、各トレンチ内で検出されているが、平面形や規模が様々で、深さが5～15cmの性格不明の遺構である。覆土として、暗褐色土にローム粒を多く含むものが多い。ボーリングや試掘から、地山の凹凸とも考えられるため、ここでは詳細については触れないでおく。

溝状遺構は、A7, A13, A29～31, Mトレンチ内に検出された。A7の溝はbトレンチ内に、A13の溝はa, b両トレンチ内にも検出されている。また、Aトレンチ内のA7の溝から西側には遺構が全く検出されていない。A13の溝は、A7の溝に比べてかなり規模が小さいが底の両立ち上がり際に小穴列が検出され、杭列のような付属施設をともなっていたと考えられる。以上その他に、溝の形態、規模から、A7の溝は、官衙域を区画する大溝である可能性が強く、A13の溝も官衙と関係のある溝かと考えられる。

四間戸地区には、東西方向にB(4×8m), C(4×4m, 4×5m), D(4×28m), I(4×12m), 南北方向にE(北端幅4m, 南端幅3m, 長さ65m), F～H(最大長52m, 最大幅9.5m)の各トレンチを設定した。基本的な土層は第7, 8図に示してあるが、C, Dトレンチ内、およびE1～3では、削平を受けていたらしく、地山としてハードローム上面を検出している。検出遺構は、竪穴住居跡、溝状遺構、掘立柱跡、土壙状遺構、小穴群がある。竪穴住居跡は、ほとんどが国分期のものと思われる。掘立柱跡はE8で試掘を行い、識別のための参考とした。F10からは土器がまとめて出土し、暗褐色土中に掘り込まれた土壙があると思われたが、地山には痕跡が認められなかった。

なお、第7, 8図の断面図の土層は次のとおりである。1.耕作土。2.黒褐色土、ローム粒、焼土粒を少量含む。3.暗褐色土、遺物を多く含む(旧表土と思われる)。4.褐色土(地山)。5.黒褐色土、遺物を多く含む、ローム粒、焼土粒、木炭粒を多く含む。6.焼土混入の黒褐色土。7.暗褐色土、焼土粒、木炭粒を多く含む。8.暗褐色土、ローム粒、焼土粒を少量含む。9.暗褐色

土、ローム粒を多く含む。10. 黒褐色土。11. 暗褐色土、ロームブロックを多く含む。12. 撥乱(木根)。13. 黄白色砂質粘土。14. 暗褐色土、ローム粒、焼土粒、木炭粒を多く含む。15. 褐色土混入の暗褐色土。16. 暗褐色土。褐色土ブロックを多く含む。

3. 出土遺物 (第10~12図)

出土遺物はほとんどが土器であるが、遺構検出面までの発掘のため細片が多い。中でも土師器が多く、須恵器はごく少量である。A7、A13の溝からも土器が出土しているが、細片のため図示できなかった。しかし、F10、住居跡の覆土直上からわずかではあるが完形品も検出されている。

3~5、8~12、14、17、19、25~27、45はF10からまとめて出土した土器である。壺、高台付皿はすべて右回転ロクロ成形であるが、器面や断面に接合痕が見られるので、粗形は粘土紐で作られたと思われる。25、26は内面に黒色処理とていねいなヘラ磨きが施され、27にも内面にヘラ磨きが施されている。磨きは、はじめに中央部、次に周囲を4~6回に分けて施されている。また、墨書が施されているものが多く、「大」、「太」、「廿」などの文字があり、27には、線刻の「太」が施されている。すべて国分期の土器である。

1、2、13、15、16、18、20、24、28、34、37、43はFトレンチ内から出土した土器である。15はF10の出土で、外面に墨書があり、残存部から「太」の字である可能性が大きい。28は須恵器の高台付皿の底部である。内外両面に摩耗した部分があり、硯の代用品と思われ、外面には「大」のような墨跡が見られる。43は鬼高峰期、他は国分期の土器である。

23、29、30、36はGトレンチ出土の土器である。時期はすべて国分期である。29は色調が黒色であるが、断面の色調、胎土から須恵器に分類した。30は内面に黒色処理とヘラ磨きが施され、磨き方はF10のものと同じである。

6、7、22、31~33、35、38、39、42、44はEトレンチ出土の土器である。6、7は体部に墨書が施されている。6は欠損のため字体は不明である。31の高台接合部の沈線はロクロ回転を利用している。33は灰釉陶器である。内外両面に淡緑色の灰釉が施され、内面には重ね焼きの跡が見られる。38、39は壺蓋である。38は頂部に鉢が付くと思われる。Fトレンチ出土の37も同様である。44は大形壺であり、内面に黒色処理と横方向のヘラ磨きが施されている。

21はAトレンチ出土の土器である。底部は平底に近い丸底であるが、回転糸切り痕が見られるので、歴史時代のものと考えられる。

40、41はIトレンチから出土した土器である。2点とも鬼高峰期のものである。

46~55はMトレンチ出土の遺物である。46は底部に木葉痕をもつ土師器の甕である。47は須恵器の甕である。口縁部と胴部とで胎土が若干異なり、口縁部の方が砂粒が少ない。口縁部は右回転ロクロ成形であるが、粗形は粘土紐によって作られたと思われる。48~51は丸底の土師

器の坏である。52は須恵器の坏である。口縁部がかなり摩耗している。53は須恵器の坏蓋で、頂部に偏平な宝珠形の鉢が付く。54は土師器高坏の脚部である。器壁が厚く、かなり大形になると思われる。55は須恵器高坏の脚部である。二次焼成のため器面がかなり荒れている。

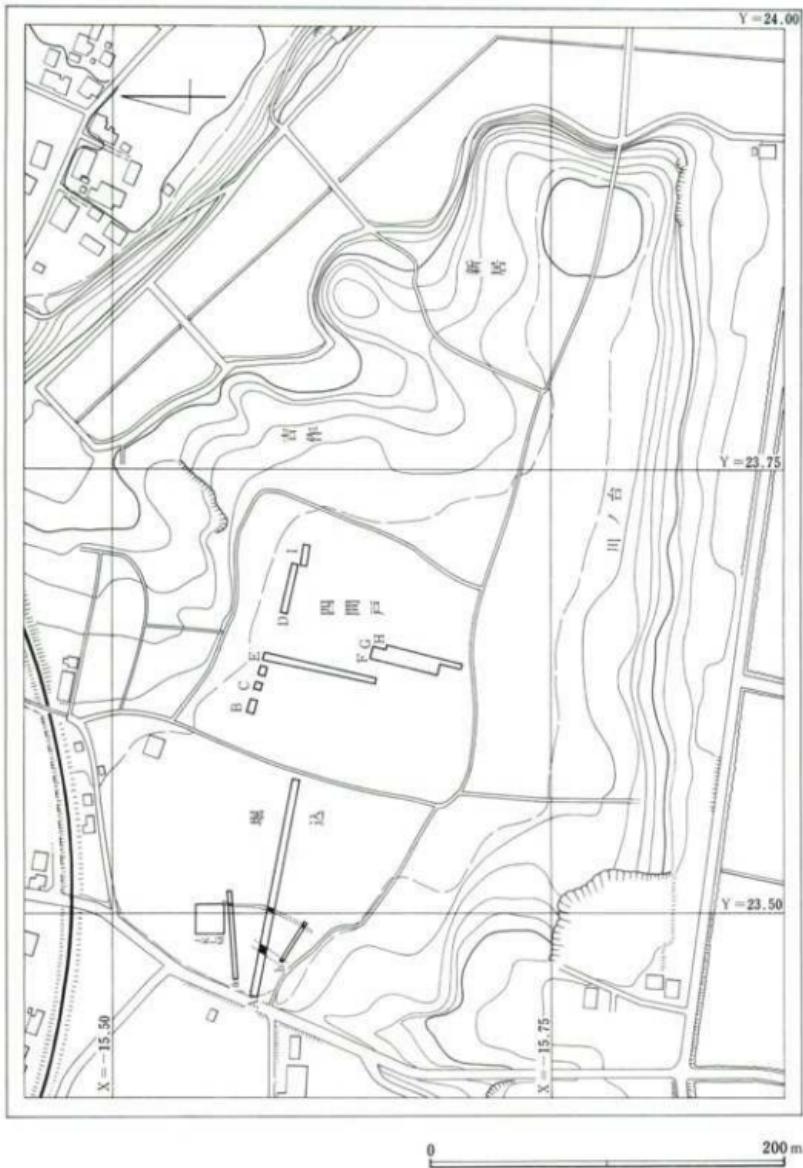
色調は、土師器が褐色(4,11,15,16,21,30,42,44),赤褐色(6,8~10,14,17~19,27,45,49),灰褐色(5,25,26,36,48,54),黒褐色(40,41,46,50),淡褐色(7,12,51),須恵器が灰色(2,3,13,22~24,33,35,53),青灰色(37~39,55),灰白色(28,32),灰黑色(1,20,31,34,52),茶褐色(47)である。胎土は土師器、須恵器ともかなり精製され、細砂粒や砂粒を少量含むものが多いが、甕などには砂粒が多く含まれている。焼成は全体に良い。

4. 結 語

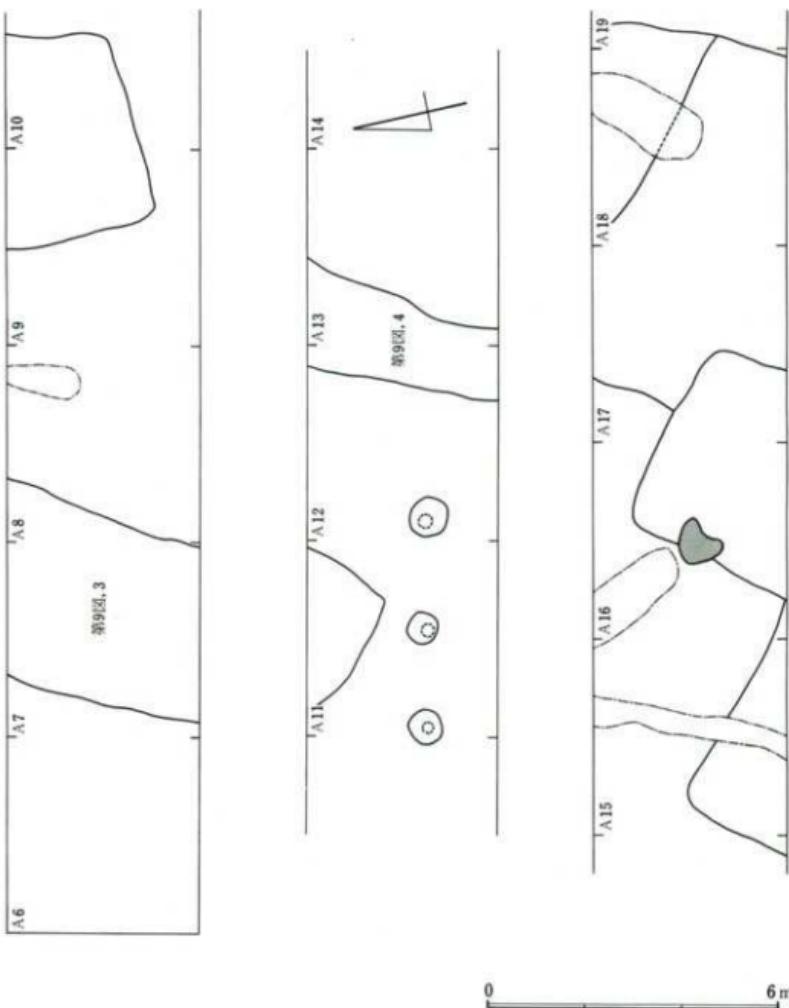
以上が昭和55年度調査の概要である。前述のように、堀込地区に設定したAトレンチ内のA7で、南北に走るかなり大きな溝を検出した。溝の形態や規模、溝の西側では遺構が皆無であることから、A7の溝が官衙域を区画する大溝と推定される。しかし、A7の溝を追跡するために設定したaトレンチではつづきが検出されなかった。かわりに、A7の溝の延長線と交わるように、掘立柱建物跡がaトレンチの西端から東16mの位置に検出されている。A13の溝は、a, b両トレンチ内でも検出されている。また、Mトレンチ内の竪穴住居跡は鬼高期と思われ、日秀西遺跡で検出された古墳時代後期の集落跡の東端を示す可能性がある。よって、A7, A13の溝、Aトレンチ内の掘立柱建物跡が官衙に関係するかどうかの確認は今後の調査を待たなければならない。

しかし、仮にすべて官衙関係の遺構とすれば、次のようにも考えられる。A7の溝は官衙域を区画する大溝であり、aトレンチ内の掘立柱建物跡は官衙の門跡とも考えられる。A13の溝は柵列または杭列をもち、A7の溝よりも新しい時期につくられたと考えられる。また、A7の溝の東側はかなり遺存の良い歴史時代の遺跡である。検出した竪穴住居跡は50軒以上であり、掘立柱建物跡もあるため、官衙に関連した遺跡の可能性もある。それを示唆するように、「太」または「大」の墨書を施した土器がF10から集中して出土している。またごく少量であるが、表土中から鉄滓も出土しているので、A7の溝の東側の集落は、官衙に必要な日常生活物資や労働力を提供していたのかもしれない。

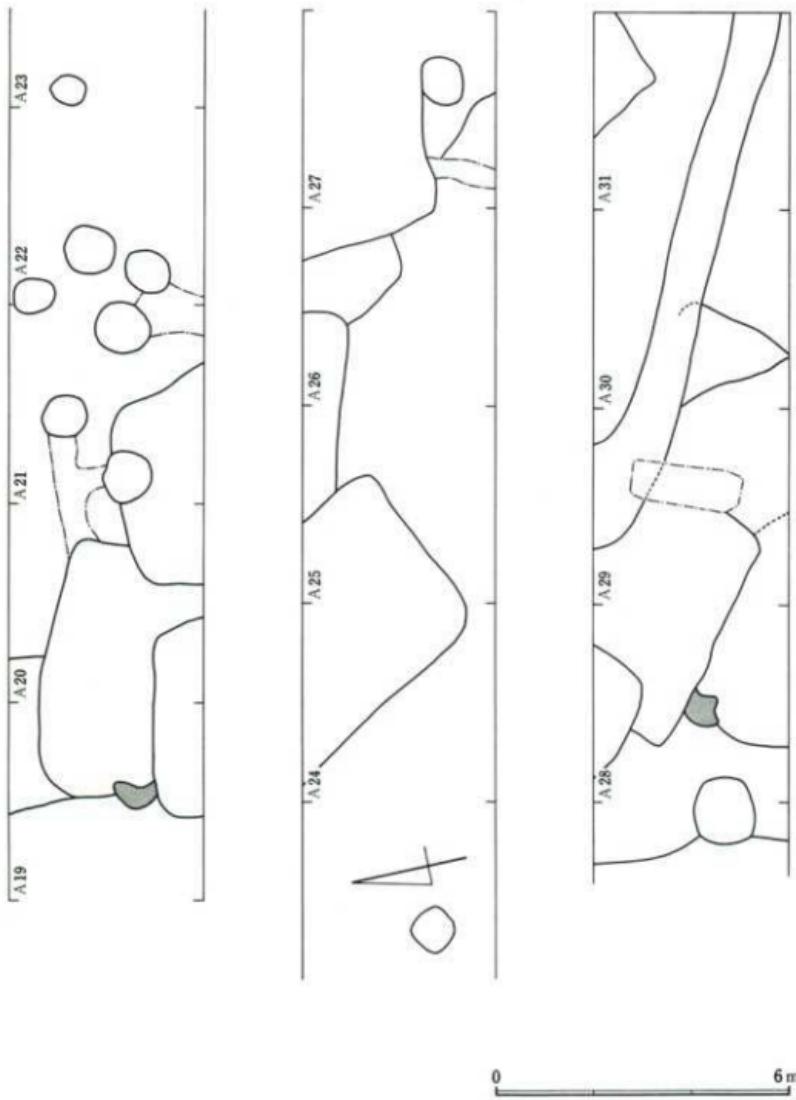
以上のように本県でも官衙跡と思われる遺構群がかなり鮮明な形であらわれたことは古代史を語るうえからも重要な意味をもつこととなろう。さらに、船橋市本郷台遺跡でも官衙との関連を思わせる遺構が検出されていることからいよいよ興味のもたれるところである。官衙跡も中央に近接した地域や、直轄地で発見される場合にはより大規模な遺跡として我々の目にふれることとなろうが、現状での日秀遺跡はまだその全容は把えることはできない。溝の把握、掘立柱跡の範囲を明確にすることにより、本遺跡の古代房総の地に占めた役割が解明されることとなろう。



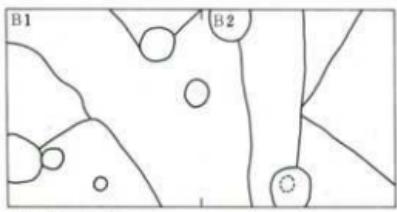
第1図 遺跡地形図



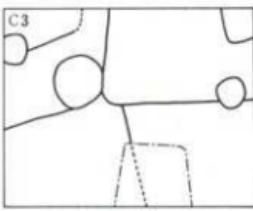
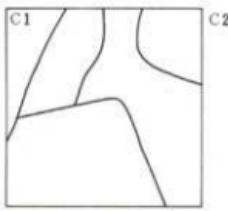
第2図 Aトレンチ遺構検出状況図 (1)



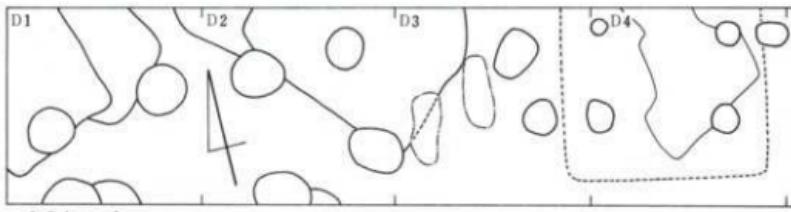
第3図 Aトレンチ遺構検出状況図(2)



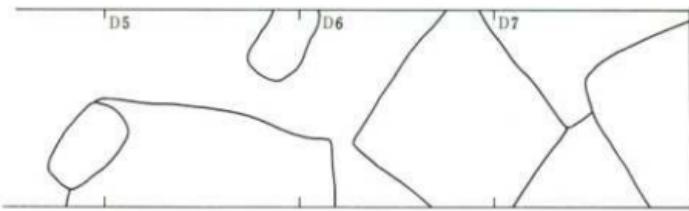
1. Bトレンチ



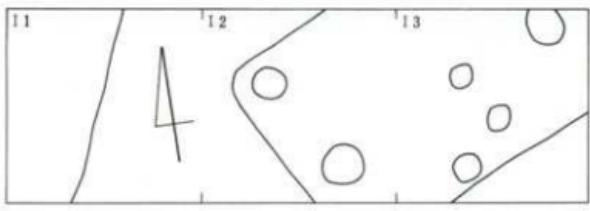
2. Cトレンチ



3. Dトレンチ



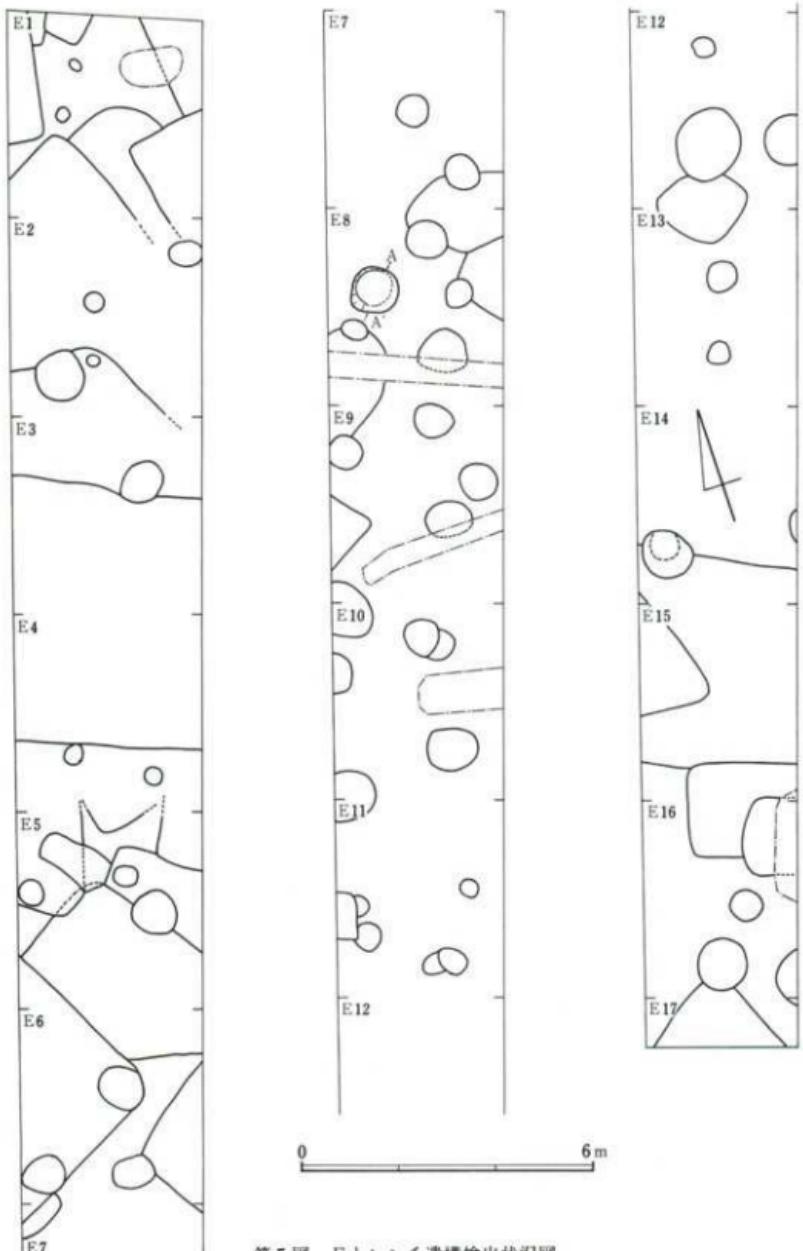
6m



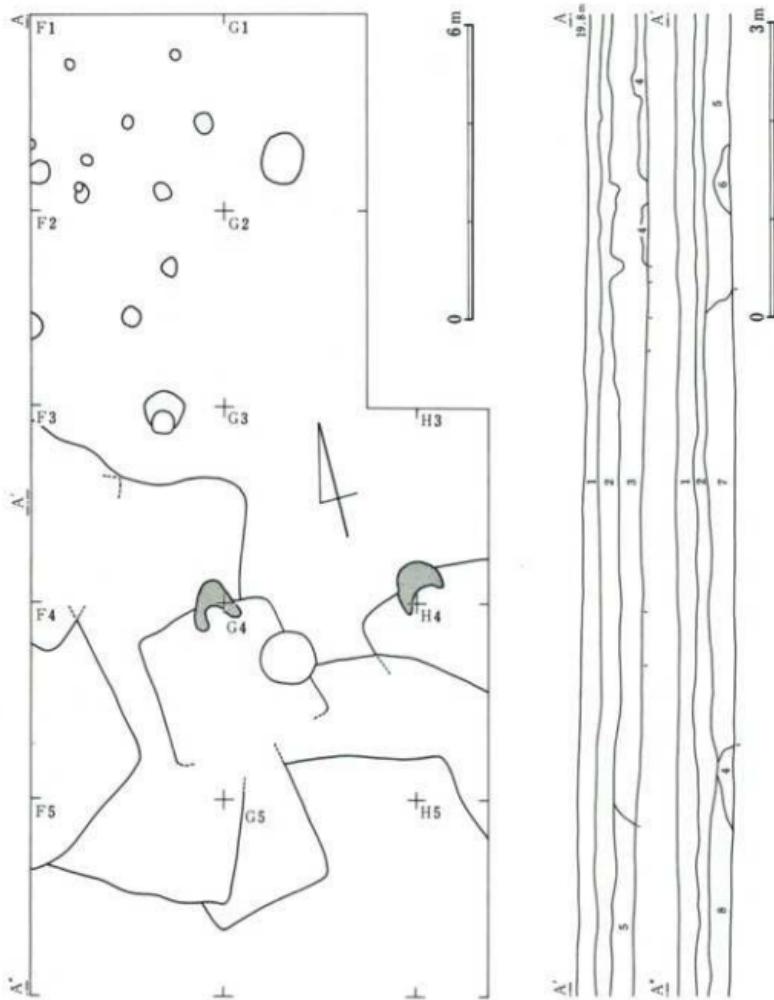
4. Iトレンチ

6m

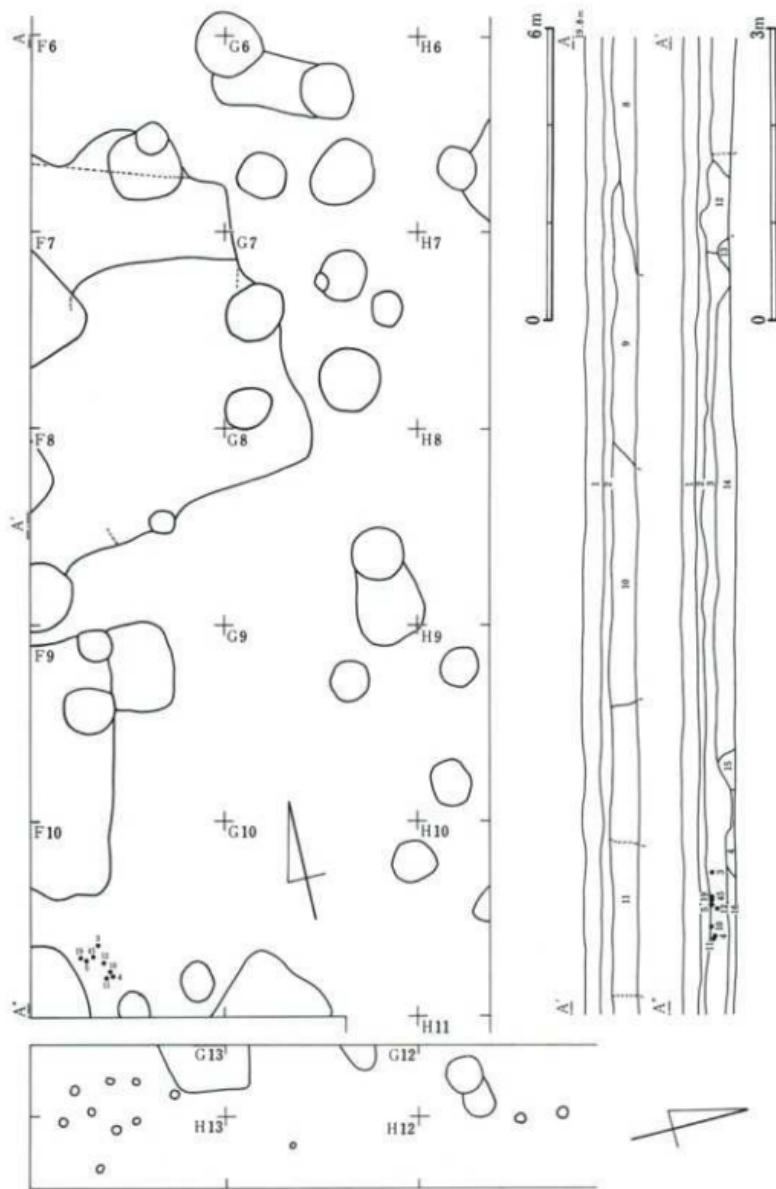
第4図 B, C, D, Iトレンチ造構検出状況図



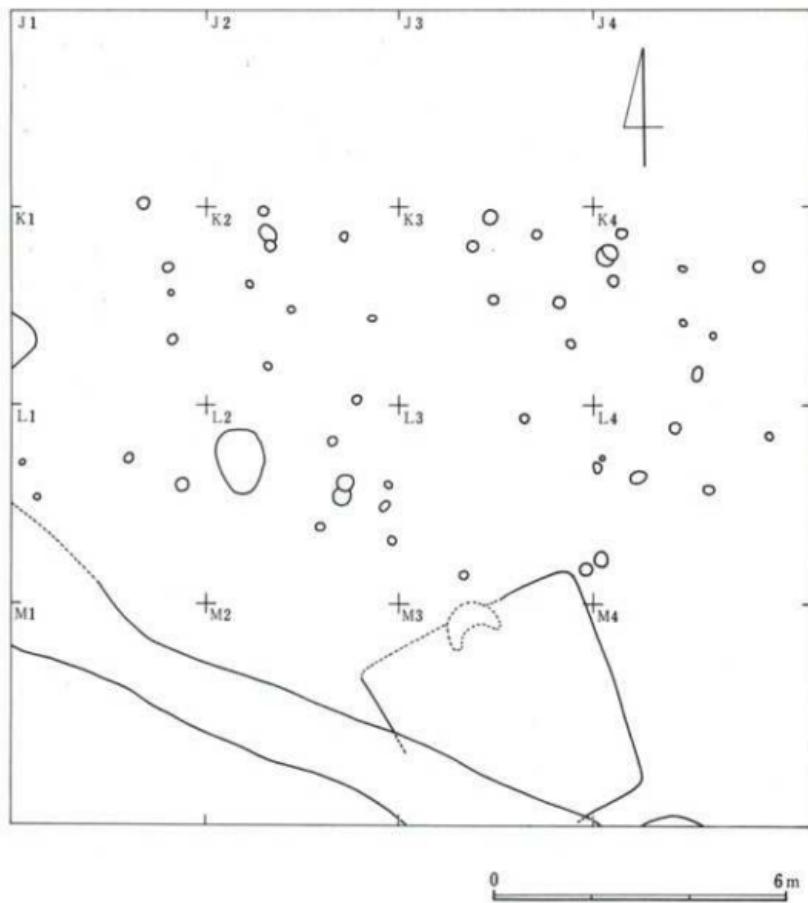
第5図 Eトレンチ遺構検出状況図



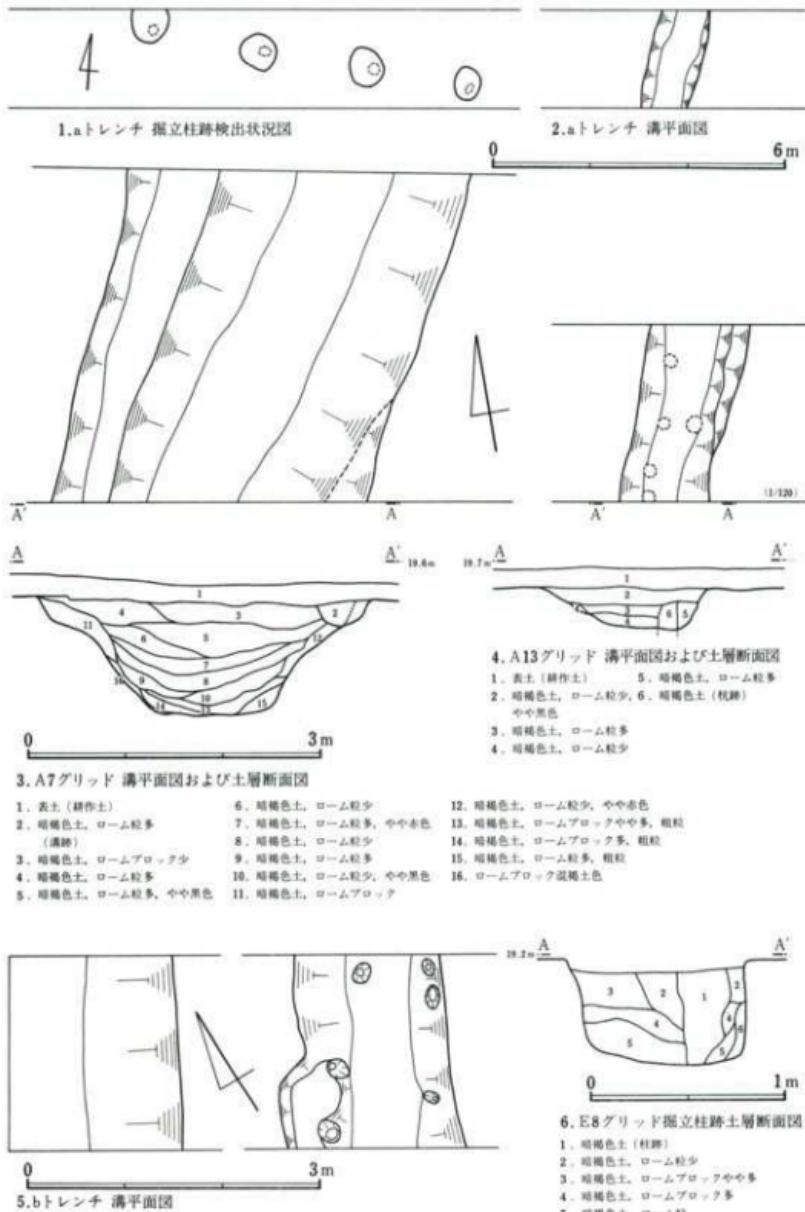
第6図 F, G, Hトレンチ造構検出状況図および土層断面図(1)



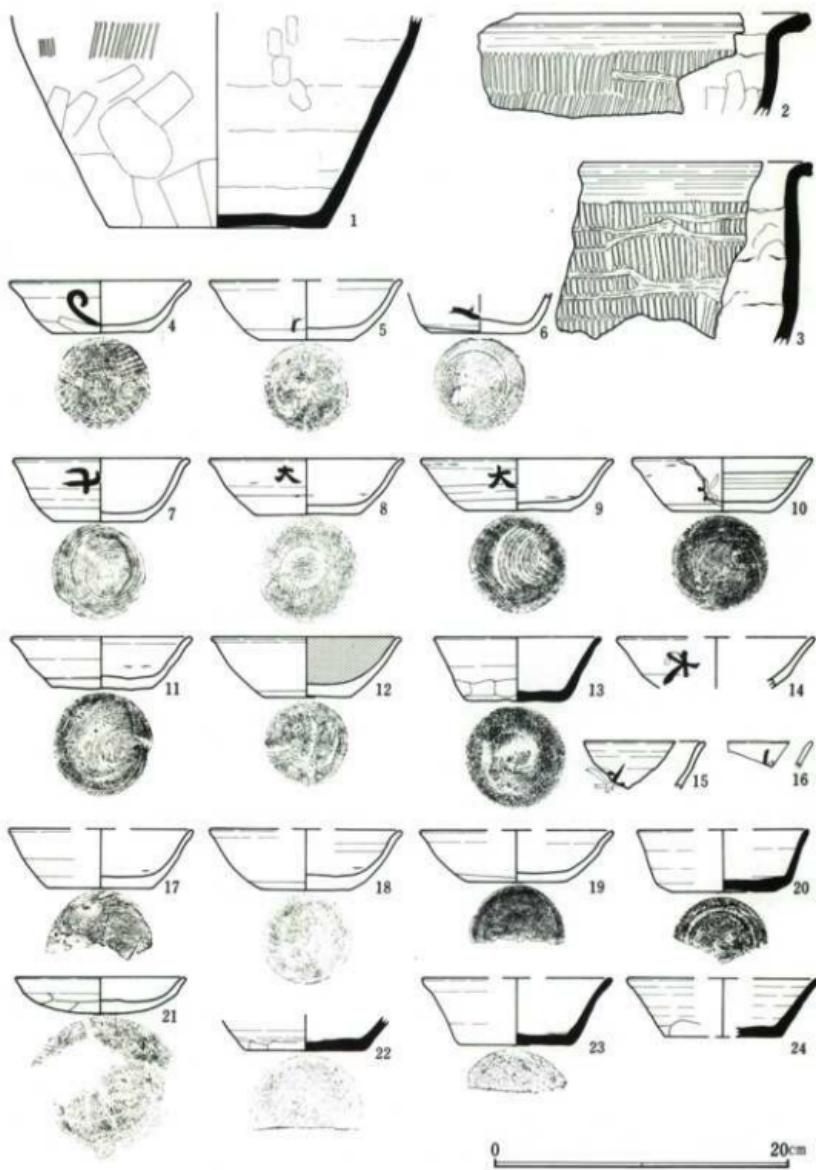
第7図 F, G, Hトレンチ遺構検出状況図および土層断面図(2)



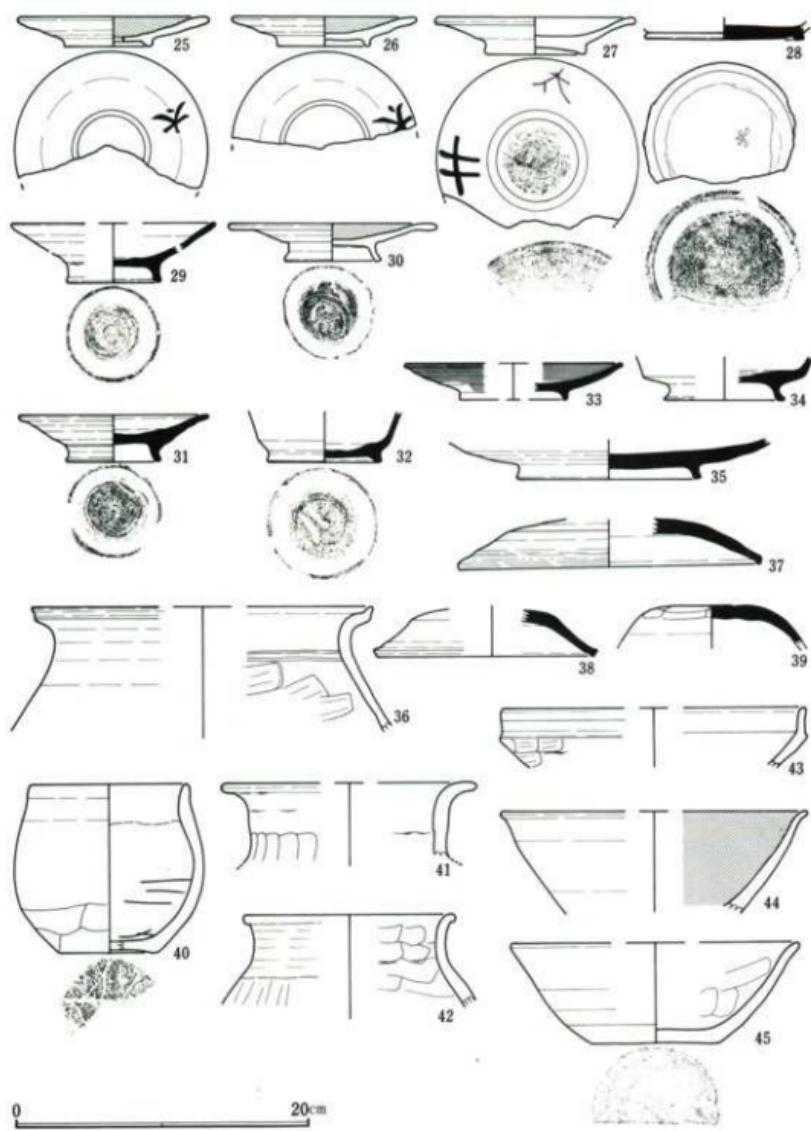
第8図 J, K, L, Mトレンチ遺構検出状況図



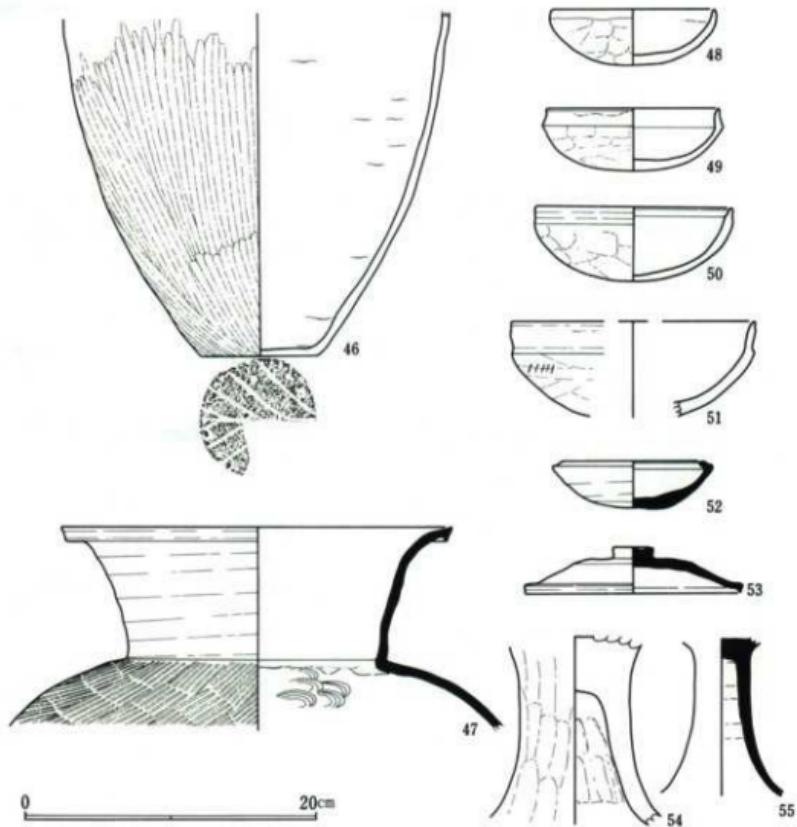
第9図 遺構実測図



第10図 出土遺物実測図（1）



第11図 出土遺物実測図（2）



第12図 出土遺物実測図（3）

図 版



Aトレンチ（西より）



Aトレンチ（東より）



F トレンチ（南より）



A 7 グリッド溝（南より）



A 13 グリッド溝（南より）



a トレンチ掘立柱跡（東より）



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



25



26

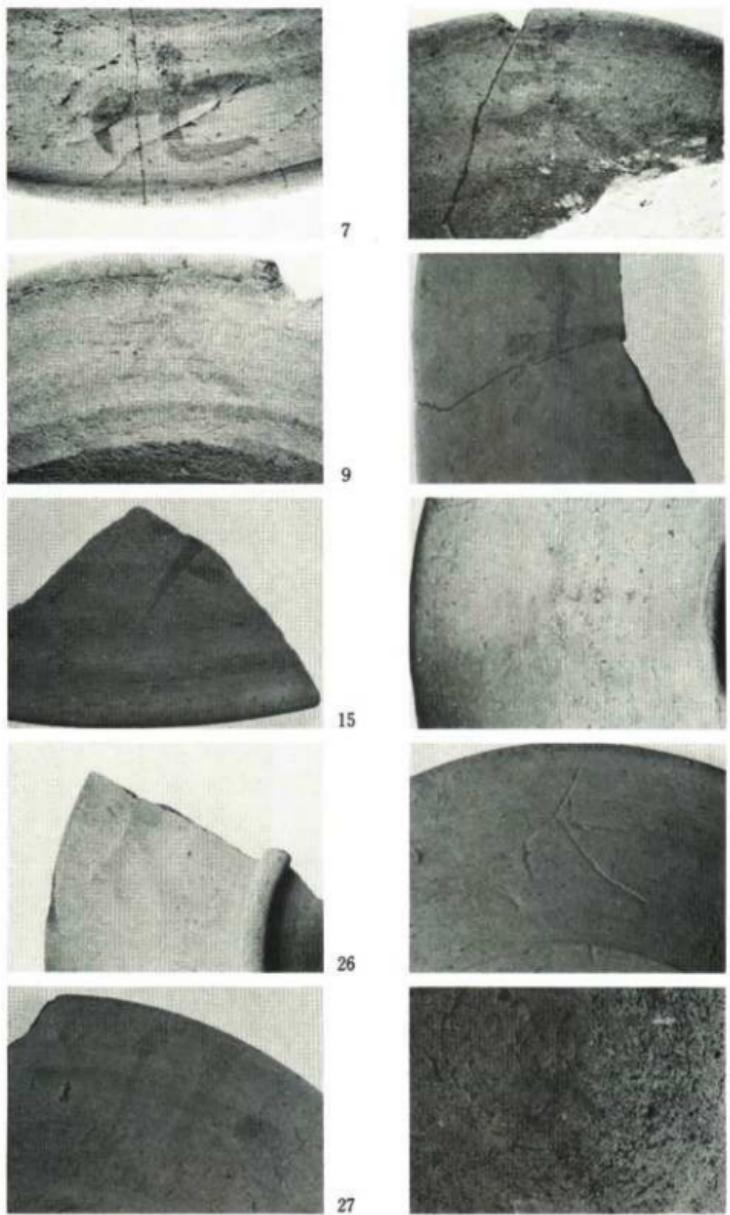


27



4

出土遺物（1）土器、墨書



出土遺物（2）墨書、線刻

千葉県我孫子市日秀遺跡遺構確認調査概報

印 刷 昭和56年3月20日

発 行 昭和56年3月31日

発 行 千葉県教育委員会

千葉市中央4-13-28 (0472)23-4082

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

千葉市亥鼻1-3-13 (0472)25-6478

印 刷 有限会社 正文社

千葉市都町2-5-5 (0472)33-2235
